

第6回性的指向・ジェンダーアイデンティティ
理解増進連絡会議

2024年8月9日14～15時
@中央合同庁舎8号館

性の多様性と心理的支援

佐々木掌子
明治大学心理社会学科臨床心理学専攻



今日お話しする内容

1. 独立した概念としての「性」に関する諸側面

- 生物学的・身体的性
- ジェンダーアイデンティティ
- 性役割
- 性的指向

2. 多様な性を前提とした心理的支援

- 心理職の役割
- 保護者・教育関係者などの大人、及び上司・管理職などの役割



生物学的・身体的性とその分化

■ 受精時における性

性染色体、さまざまな遺伝子: **XX**、**XY**、**XXY**、**XXO**...**SRY**、**SOX9**、**SF1**、**RSPO1**、**WNT4**、**DAX1**...

■ 胎生期に発育する性

性腺: 精巣、卵巣など

内性器: 精管、精嚢、卵管、子宮など

外性器: 陰茎、陰嚢、陰核、陰唇など

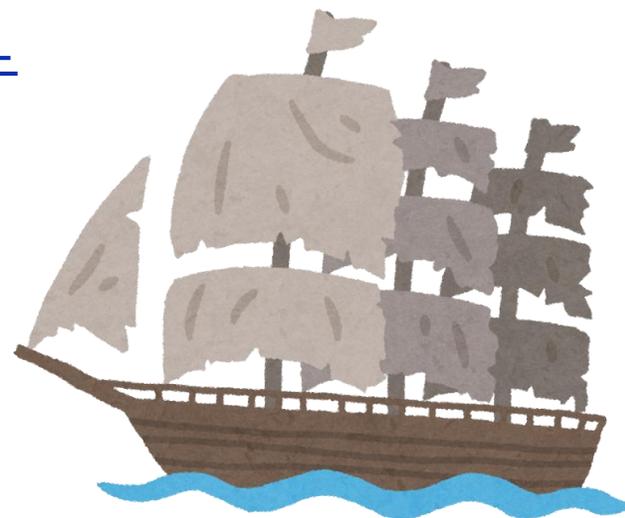
■ 第二性徴における性

ホルモン: エストロゲン・アンドロゲンの分泌の活発化による身体つきや声などの変化



同一性(アイデンティティ)とは

- 哲学の教科書でしばしば言及される「テセウスの船」によるアイデンティティの問い。
- 過去のテセウスの船とパーツが異なる現在のテセウスの船は同じテセウスの船なのか。
- どこまで「同じ」であれば「同じ」であるとされるのか。



同一性(アイデンティティ)とは

■ identity

ラテン語idem (the same) を語源とする

■ 哲学者の「同一性」の説明

ある時点に立ち止まってふり返ったときに、そのふり返ったものをまとめあげること (野矢, 2002) 」

■ 心理学者エリク・H・エリクソンの「同一性」

- 「私はいつも同じ私である」という認識と「私は他者と重要な特徴を持続的に共有している」という認識の両方が融合したもの (伊藤, 2012) 。
- 私は私であるという認識と私は他者・社会によって承認されているという認識を統合していくプロセス (西平, 1993)



ジェンダーアイデンティティ(**Gender identity**)

- 定義: 自己の属する性別についての認識に関するその同一性の有無又は程度に係る意識をいう(法律第68号第二条)
 - The sameness, unity, and persistence of one's individuality as male or female or ambivalent, in greater or lesser degree, especially as experienced in self-awareness and behavior (Money, 1965)
 - 性別に対する時間的かつ社会的な統一性・一貫性・持続性の感覚
-

性役割 (Gender Role)

- ある性別に付与された役割
- 社会や文化、時代によって異なるだけでなく、個人によって性役割の内容が異なる
- ポイントは、性同一性とは相関はあるものの、独立した異なる概念であること

性的指向 (Sexual Orientation)

- 定義: 恋愛感情又は性的感情の対象となる性別についての指向(法律第68号第二条)
- 性的指向をどう捉えるかの難しさ

ポイントは、性同一性および性役割とは相関はあるものの、独立した異なる概念であること

“性はグラデーション”とは？

- 性には、身体的性、性同一性、性役割、性的指向などの構成要素がある。
 - さらにそれぞれは、相関がありながらも独立した概念である。
 - 各要素をどの程度の濃淡で持っているのかがその人のセクシュアリティの個性である。
 - × 性的マイノリティがいるから性は多様
 - 性的マジョリティも含め各要素の濃淡が各自異なるため性は多様
 - 人のセクシュアリティは、カテゴリーではとらえきれない豊かさを内包する。
-

性の多様性に関する心理職の役割

- ・ 臨床心理学を基盤に、①心理アセスメント、②心理カウンセリング、③地域援助、④研究を行う
- ① 性同一性、性役割、性的指向等だけではなく、認知能力、パーソナリティ、家族関係、学校・職場環境等、心理検査や面接を通してさまざまな情報から総合的に当事者に対する理解を深める
- ② ①を元に当事者に対する相談を行う
- ③ 周囲への働きかけ(コンサルテーションや心理学的情報提供も含む)を行う
- ④ ①～③に資する研究を行う



性別に関する認知発達理論

- Kohlberg (1966) により提唱
- Slaby & Frey (1975) が3段階を理論化
- 性別恒常性習得前の子どもにおけるジェンダー規範の強さ(Ruble, et al., 2007)



思春期前：流動性の保証

■ 欧米における性別違和の臨床データでは

- 小児期の性別違和が青年・成人期まで持続する率は低い(男児12～29.1%、女児12.2～50%)が、持続する少数の子どももいる。
- 性別違和が持続しなかった小児の青年期以降の同性愛・両性愛の率は、男児は48～77.4%女児は0～27.2%と報告されている。

■ 小児時点での将来予測は困難

■ 性同一性・性役割・性的指向とを混同していることも



思春期後：モラトリアムの保証

- 性的成熟が訪れ、本格的に、性に関する「アイデンティティ(＝融合し、統合し、まとめあげる)」課題に取り組み始める
 - ジェンダーアイデンティティ(gender identity)
 - 性的(指向)アイデンティティ(sexual identity)
- さまざまなセクシュアリティの存在に触れ、社会や他者の中での自分の位置づけをトライアル & エラーを繰り返しながら探る
- アイデンティティ探求には時間とそのための環境が必要
- 周囲も本人も決めつけない姿勢で探求できるように(曖昧さ耐性／失敗する権利)
- 性同一性と性役割と性的指向を混同していることも



流動性とモラトリアムの保証

- 性同一性障害に係る児童生徒が求める支援は、当該児童生徒が有する違和感の強弱等に応じ様々であり、また、当該違和感
は成長に従い減ずることも含め変動があり得るものとされている
ことから、学校として先入観をもたず、その時々
の児童生徒の状況等に応じた支援を行うことが必要であること。

(「性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について」、27文科初児生第3号、平成27年4月30日)



心理職によるカウンセリング

- ・ 臨床心理学を基盤(各心理療法理論に基づくカウンセリング)
- ・ 病態水準・発達水準の視点
- ・ 「知的理解」、「同感」、「共感」の違い(e.g. 訓練中の大学院研修生)



- ・ 「カウンセリングの訓練」+「性の多様性に関する学習」の両輪



事例

- 子どもの事例
- 成人の事例



周囲の人の役割

- 当事者が相談をしてくれているのであれば、その状態や訴え、心情を把握する。



すべてのケースは個別対応

- 文科省の平成27年4月30日通知の最終ページにある「学校における支援の事例」はあくまでも「事例」。マニュアルはない。子どもの心情に配慮しながら、丁寧に個別に調整する。
- 成人期以降、性同一性形成が途上にあることもある。職場等でも、丁寧に個別に調整する。
- 性的指向についても、その同一性の形成は青年期以降探求が行われる。各人の個別的なテーマである。



周囲の人の役割

- 敢えて話さない当事者が圧倒的に多いことを踏まえ、多様な性を前提とした環境整備をする。



性の多様性を前提とした環境をつくる

■一人一人の性が大切にされ、尊重される園・学校・施設・職場・地域等であるために

- 不必要な男女二分法と異性愛主義があるか否かの洗い出し(現行の慣習や不文律に「教育的意味はあるのか」「人権をまもれているか」等といった視点から問い直す)
- セクシュアル・ハラスメントの防止・排除(人事院の「性的な言動」の定義は“性的な関心や欲求に基づく言動”とされるが、それにはジェンダーアイデンティティ・性役割・性的指向に関する偏見に基づく言動も含まれるとされる)。



- That's all.

御清聴くださいました
たいへんありがとうございました

